

いもう 葦毛通信



トウカイコモウセンゴケ

2026年8月27日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 188

1、セイヨウミツバチの営巣

1) スズメバチの襲来と巣の放棄

昨年、葦毛湿原管理倉庫の桜の木にセイヨウミツバチが営巣し、葦毛通信で報告しました（葦毛通信 No. 173 参照）。しかし、オオスズメバチに襲われて全滅、あるいは巣を放棄してしまったようで、セイヨウミツバチはいなくなっていました。

今年も同じ木にセイヨウミツバチが営巣しているのを5月28日に確認しました。下左写真は営巣しているセイヨウミツバチで塊になっているのが見えます。しかし、今年もス



スズメバチ襲撃前（2026年6月3日） キイロスズメバチ襲撃（2026年6月9日）

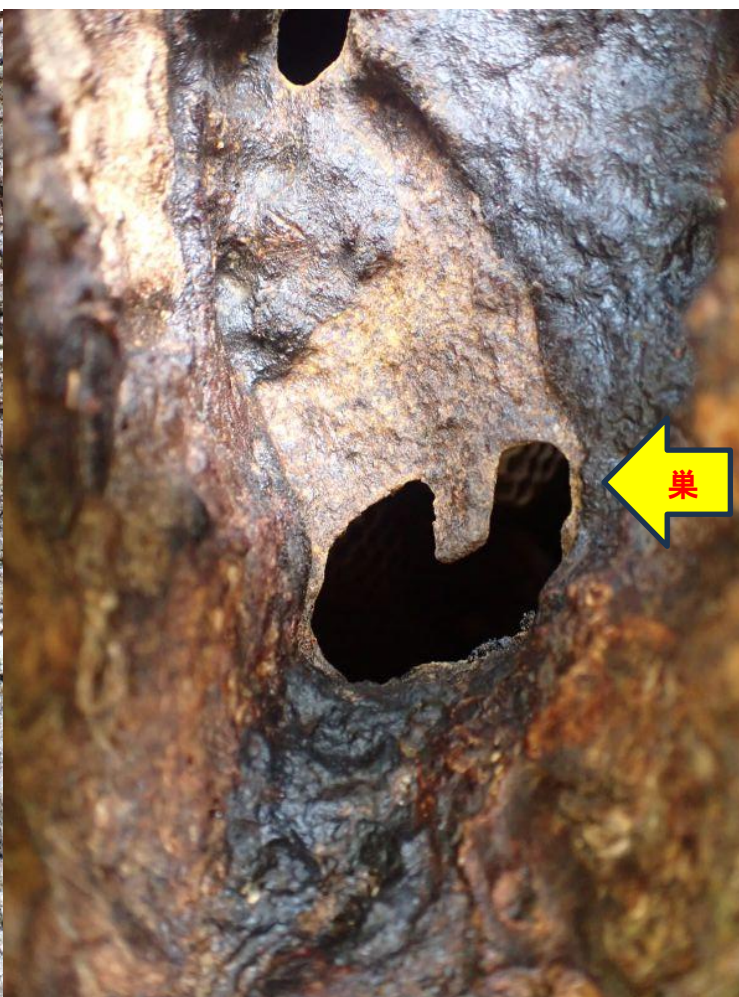
ズメバチに襲われて巣を放棄していなくなっていました。前頁右写真はキイロスズメバチに襲われているところです。この時観察しているとセイヨウミツバチ3頭がキイロスズメバチに捕まって運ばれていきました。その後もセイヨウミツバチは営巣を続け、7月7日には1分間に11頭のミツバチが採蜜から戻ってきているのが確認できました。キイロスズメバチの後にオオスズメバチもセイヨウミツバチを捕獲していたのを観察しましたが、8月4日には昨年と同様にセイヨウミツバチはいなくなっていました（下左写真）。

残された巣を観察すると木の洞の入り口やや奥に黒色や淡茶色の分泌物（巣材の蜜蝋とは異なっている）で膜状の壁を造っており、出入り口に穴が開いていました。下右写真中央の穴の奥には六角形の巣が見えるので、中で子育てして繁殖していたのは確認できました。穴の中の大きさは分かりませんが、意外と広いのかもしれません。

膜状の壁はそれほど強度があるようには見えません。簡単にスズメバチに食い破られてしまいそうです。このような構造がセイヨウミツバチの自然繁殖にともなって普通に行われているものかはわかりません。



セイヨウミツバチ（2026年6月3日）



オオスズメバチ襲撃後（2026年8月4日）セイヨウミツバチはいなくなっていた

2、2026 年ニホンミツバチ巣箱設置経過報告－2

1) ニホンミツバチの営巣

一の沢の上流部に2か所ニホンミツバチの巣箱を設置してあり、2026 年は葦毛通信 186 号で第1回の報告をしました。その後、ニホンミツバチは順調に個体数を増やし、採蜜行動も盛んになり、6月3日には1分間に21頭が巣に帰ってきました。6月18日には66頭、7月7日には102頭になり最高数になりましたが、7月22日には15頭に減少し、8月17日には1頭になり、採蜜行動はほとんどなくなりました。



巣箱の様子（2026 年 7 月 22 日） 採蜜から戻ったニホンミツバチ（2026 年 5 月 11 日）



巣箱入り口のニホンミツバチ（2026 年 8 月 26 日） 巣箱底の隙間に集まったニホンミツバチ

8月になり気温が上がるとニホンミツバチは巣の入り口に集まって盛んに翅を震わせて巣の中に空気を送り込んで巣内の温度を下げています（上左写真）。一の沢東側の巣箱は巣箱後ろ側と底板の間がわずかに開いており、ここから出入りしています（上写真右）。

3、葦毛湿原秋の観察会

国指定天然記念物「葦毛湿原」の秋の観察会を行います。シラタマホシクサ、サワシロギク、イワショウブ、キセルアザミ、ミミカキグサ類等の夏から秋の花が見ごろになります。今年は7・8月にほとんど雨が降らず葦毛湿原はカラカラ状態です。シラタマホシクサの開花も遅れていますが、観察会の時には見ごろになると考えられます。ぜひ、ご覧ください。

- 1 開催日時 9月5日（土）9:30～11:30 （少雨決行）
- 2 集合場所 長尾池公園あずまや（トイレ東側）
- 3 参加申込 現地受付（事前申し込み不要）、
定員 60 名（当日現地申込先着順）
- 4 問い合わせ 豊橋市文化財センター
（☎0532-56-6060）

5 開花状況 8月下旬の時点で、葦毛湿原ではサギソウ、コオニユリ等の夏の花がほぼ咲き終わり、秋の花であるシラタマホシクサ、ミズギク、サワシロギクが咲き始めています。ミミカキグサ類では、愛知県絶滅危惧ⅠB類のヒメミミカキグサが開花しています。

去年は500花以上が開花しましたが、今年は7・8月にほとんど雨が降らなかった影響で開花数が少ない状態です。これから雨が降れば開花数も増えると思われます。ヒメミミカキグサの花はあまりにも小さいため、見学に際しては双眼鏡を持って行くことをお勧めします。



2025 年秋の観察会



シラタマホシクサ



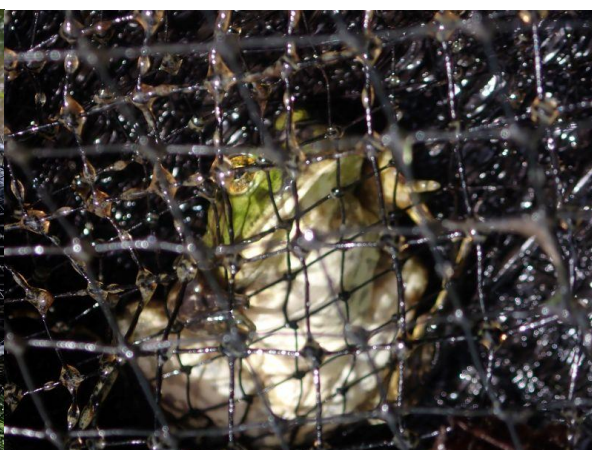
サワシロギク



ミズギボウシ

4、ウシガエルのワナ

ウシガエルのワナの点検をしたところ、ヤマカガシが入っており出られなくなっていました（下左写真）。ワナの底には体長 103 mm のウシガエルがいたので、これを狙ってワナに入っており出られなくなったものと思われます。これまでもアオダイショウが入っていたことがありましたが（葦毛通信 No. 128 参照）、今回も注意して網を切って逃がしました。



ワナに絡まったヤマカガシ （2026 年 8 月 17 日） ワナの底にいたウシガエル